

| | | | |
|-------|------------------------------|-------|-----------------|
| 指導の形態 | 国語「助詞の指導」 ～ジェスチャーゲームを通して～ | 障がい種等 | 特別支援学級 知的障がい |
|-------|------------------------------|-------|-----------------|

授業の概要やよさ

- ・本事例は、助詞の指導を行った事例である。
- ・子どもの興味関心を持たせるため、ジェスチャーゲームを教材として取り上げ、楽しい雰囲気の中で学習を進めた。

児童生徒の様子

- A男：小学校5年**
- 作文や日記の中で助詞を間違えて使うことが多い。特に「に」を使う部分で「を」を使う。本読みでも助詞を飛ばしたり、間違っ
 - て読んだりすることが多い。
 - 2語文程度の簡単な文を理解したり、話したりすることができる。
 - 見通しが持てると落ち着いて学習に取り組む。
 - 正解したことを自分で確かめることで意欲的に取り組む。
 - 字を書くことが苦手である。

目標

正しいことばを入れてジェスチャーを表す文を作ろう。(具体的な動作や場面を見て、適切な助詞を使って文を完成させる。)

支援のポイント

ジェスチャーゲームを教材として取り上げ、楽しい雰囲気の中で、以下の手順で、学習をすすめる。

【ジェスチャーゲーム：出題者の動作】

《進め方》

①教師がジェスチャーゲームの出題者をする。

- ・助詞に意識を向けることができるように、問題のリストを提示しておき【写真1】、助詞を入れて答えさせる。難しい時は、2つの文字タイルから選択させる。
- ・**を** **に**等、答えのカードを用意しておき、できたら上に貼りつけて確認させる。【写真2】
- ・正しい助詞を入れた文は、教師と一緒にジェスチャーしながら言って復習する。

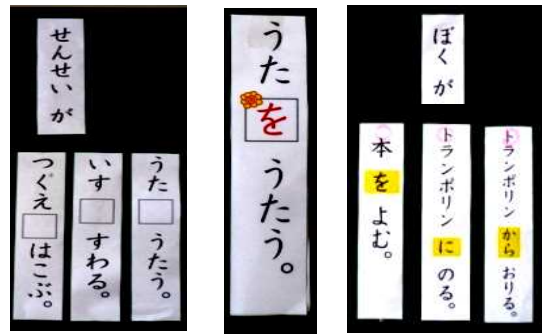


《椅子に座る》

《机を運ぶ》

②A男が出題者になる。【写真3】

- ・助詞の入った問題のリストを見ながら行う。教師が答えるときに、「トランポリン？」と助詞の部分で悩んで見せたり、間違った助詞を入れて答えたりして、助詞を意識できるようにする。



【写真1】

【写真2】

【写真3】

③学習した文を表すイラストを見て文を書き、「助詞表」に貼り付ける。

- ・「助詞表」は、ジェスチャーゲームの解答を考える際の手がかりにも活用する。